

肝蛭症に注意しましょう！

南丹管内の飼養山羊において肝蛭（かんでつ）症が確認されました。

肝蛭症とは

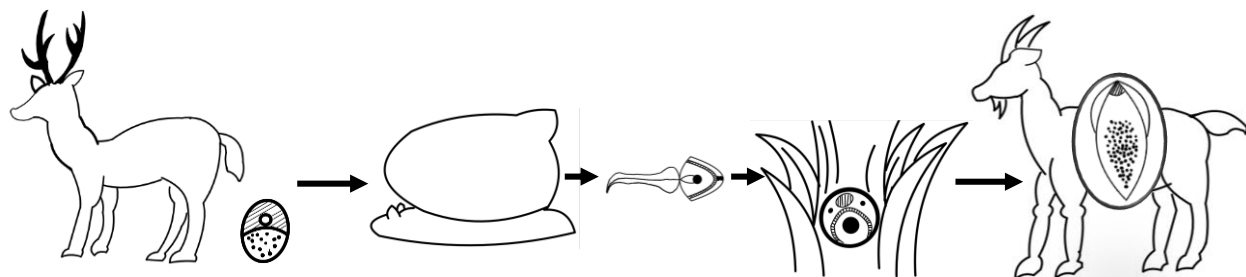
- 肝蛭（木の葉のような形をした寄生虫）の感染症です。
- 反芻動物（牛やめん羊、山羊、シカ等の肝臓（主に胆管）に寄生します。



肝蛭の成虫
（大きさ：2～3 cm）

主な感染経路

- ① 肝蛭に感染した牛や山羊、野生のシカ等の糞便とともに虫卵が排泄され、ふ化します。
- ② ふ化した幼虫は、水田や小川に生息するヒメモノアラガイ（巻貝の一種）に寄生します。
- ③ 貝の中で成長した幼虫は、水中に泳ぎ出て稲や水辺の野草に付着します。
- ④ 幼虫が付着した稲や野草を山羊等が食べることで肝蛭に感染します。



主な症状

- 元気消失、食欲不振、発育遅延、泌乳量の低下など。
- 肝蛭が多数寄生することにより死亡することもあります。

予防対策

- 稲わらを給与する場合：十分に乾燥させたもの（ビニールハウスで2カ月以上保存）又はサイレージ化したものを使用しましょう。
- 放牧をする場合：野生のシカ等との接触を避け、予防的に駆虫薬を投与しましょう。

～家畜に異常を認めたら、直ちに当所に連絡願います～

京都府南丹家畜保健衛生所 TEL: 0771-42-3308 (夜間・休日も転送機能で連絡可能)